

農林水産大臣賞受賞

未来につながるみんなの美しいふるさと

受賞者 いたがばた 板荷畑 みかい いくし美会
とちぎけんかぬまし
(栃木県鹿沼市)

■ 地域の沿革と概要

鹿沼市は、面積が 490.64 km²、人口が 98,503 人（平成 30 年 2 月 28 日現在）で、東京都からおおよそ 100 km、北関東の中央部に位置する。栃木県の中では、県央西部にあり、圏域の北部は国際観光地の日光市に隣接し、東部は県庁所在地の宇都宮市に隣接している。

当団体が活動する板荷畑地域は、鹿沼市の北部に位置し、地域に 9 つある自治会の中の一つである「板荷 4 区」自治会をその活動のエリアとしている。

第 1 図 位置図



■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

板荷地域の北端に位置する中山間地域であり、東西は山林に隣接し、中央部を貫流する一級河川行川支流の長畑川流域に水田が、西部の山林隣接区域に、畑が分布している。圃場整備事業等を実施していないため、農地、農道及び農業用排水路は昔からの形状を残し、山村の原風景が残されている。また、地域の中央部には地区住民が大切に守り、組織の名称の元となった「巖島神社」と活動拠点である「板荷 4 区生活センタ

第 1 表 地区の概要

事項	内容	
地区の規模	集落の集合体	
地区の性格	地縁的な集団等	
農家率 (内訳)		9.5%
	総世帯数	35,079 戸
	総農家数	3,325 戸
専業別農家数 (内訳)	専業農家	624 戸
	1種兼業農家	287 戸
	2種兼業農家	1,403 戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積	49,064ha
	耕地面積	5,590ha
	田	4,090ha
	畑	1,500ha
	耕地率	11.4%
	農家一戸当たり耕地面積	1.7ha

注：市全体の数値
専業別農家数は販売農家の内数のため、総農家数と一致しない

一」がある。主な農作物は水稲、そば、里芋、しいたけ等であるが、兼業農業が多い状況となっている。

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

板荷畑地区は、これまで担い手農家といわれるような農家がほとんど居らず、圃場整備も未実施であることや農作物の野生鳥獣被害の増大、農業者の高齢化により、徐々に耕作放棄地が拡大し、将来の地区の農業継続や環境の維持保全に対する不安を抱えていた。



写真1 板荷畑地区全景

こうした現状の中、地域で住民が連携した取組を行うことで課題解決が可能と考え、平成19年3月から自治会長を中心とした発起人会が当会設立をテーマとした会議や住民を対象とした説明会、現地調査を実施し、地区全戸を構成員とした「板荷畑いつくし美会」を平成20年3月に設立するとともに、「農地・水・環境保全向上対策（現 多面的機能支払交付金）」の事業実施地区として採択を受け活動を行っている。

(2) むらづくりの推進体制

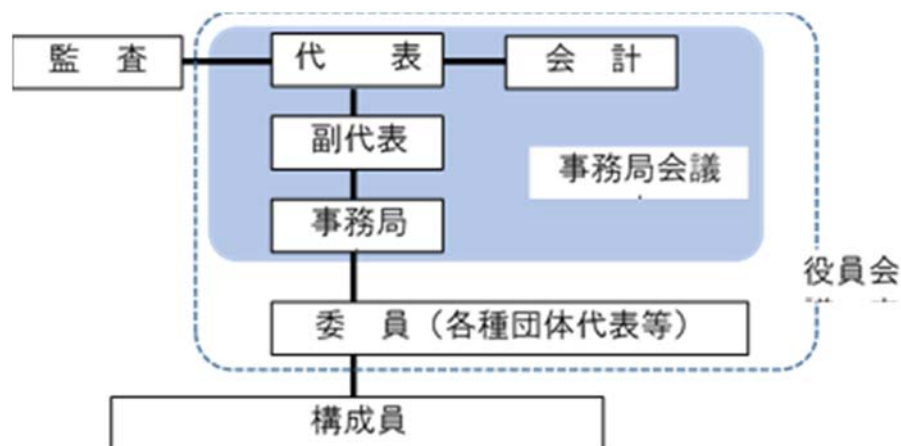
ア 当該集団等の組織体制、構成員の状況

小学生以上の地区住民等を構成員とし、組織には、代表、副代表、会計、事務局、監査、委員の役員を設け、農家、非農家を問わず加入している。

設立：平成20年3月9日

構成員：185名（56世帯 農家27戸、非農家29戸）

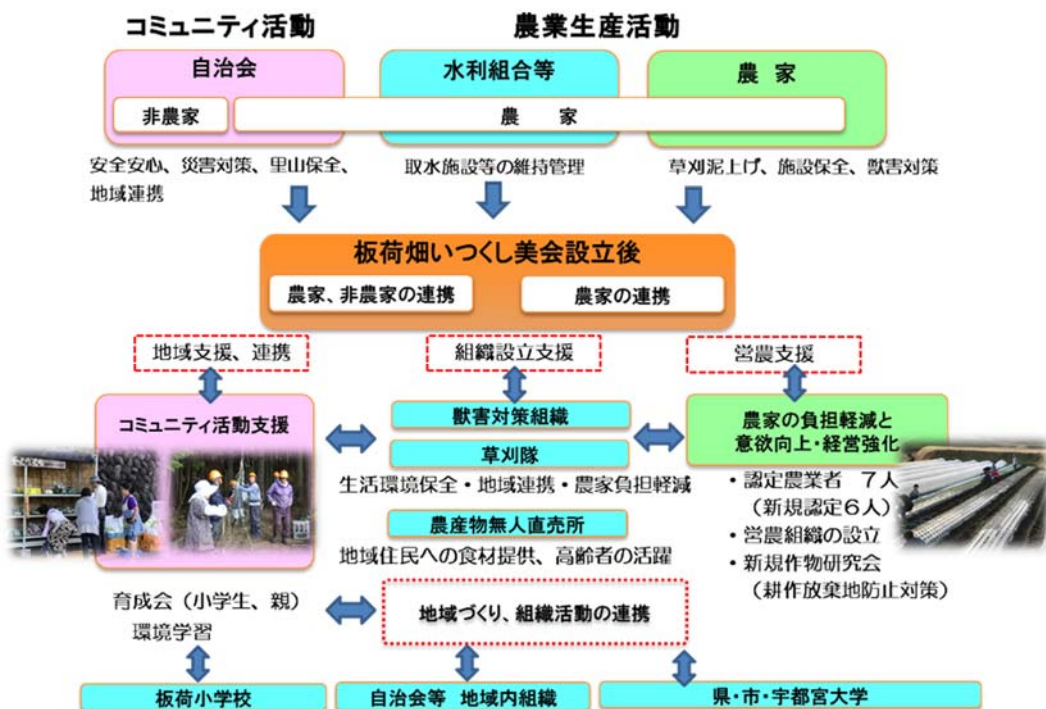
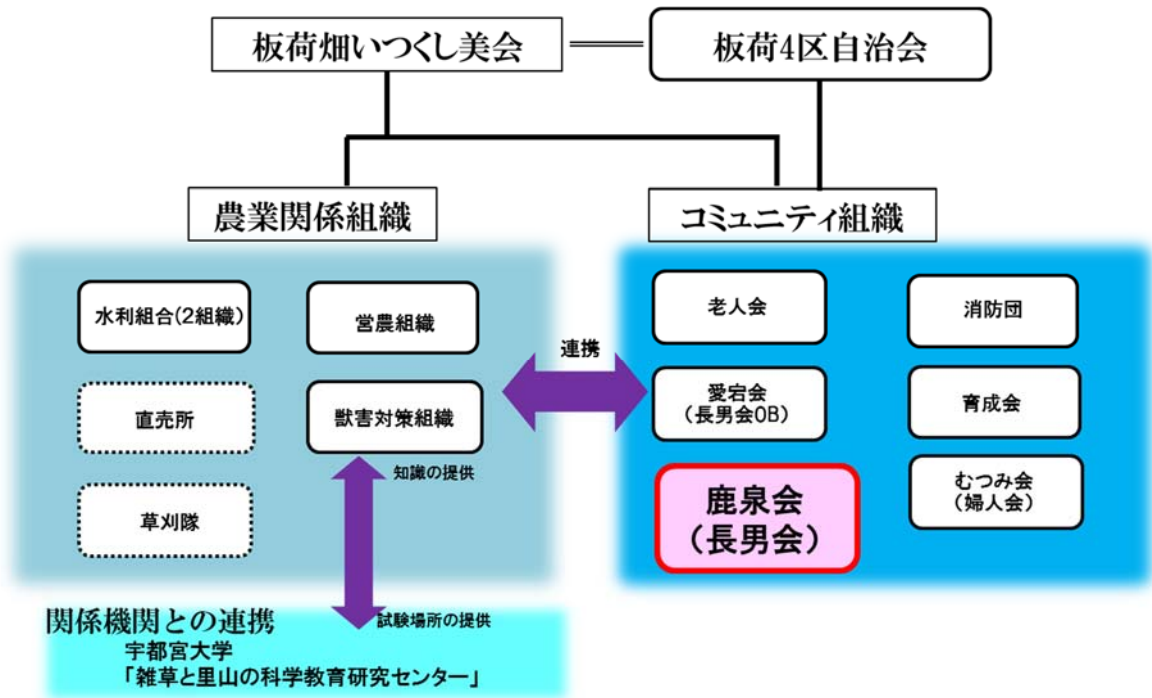
第2図 むらづくり推進体制図



イ 当該集団等と連携してむらづくりを行う他の組織、団体及び行政との関係

関係する地域の組織体制は、自治会、水利組合、消防団、鹿泉会（地域の後継者組織）等のほか、当会結成後に自立した草刈隊、営農組合、獣害対策組織、直売所といった組織に加え、栃木県、宇都宮大学及び地域の小学校とも連携し活動を行っている。

第3図 むらづくり連携図



■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

当会を運営するに当たり、課題やニーズ、今後の地区の核となる若い世代の農業・農村に関する考えを把握し、合意形成に取り組む必要があるとの意見から、地区住民へのアンケート調査を実施し、課題の解決を優先して取り組み、少しずつ成果を上げることで、当会の信頼を高め、住民との連帯感と活動への意欲を高めている。

その結果、野生鳥獣被害の対策、耕作放棄地の解消、生きもの調査、無人農作物直売所の開設等の取組などを通じて「行動すれば地域が変わる」という意識も芽生え、新たな組織を設立し、農業に意欲的に取り組む機運が高まっている。

2. 農業生産面における特徴

(1) 無人農産物直売所の運営

農産物直売組織は、地域の農家6名が、自家用野菜の有効活用と新たな農業経営の可能性を探るため、若い世代からの提案により平成26年度に無人直売所を設立している。利用者が口コミ等により増加し、無人販売の形態でありながら売上は年間100万円を超えるまでに成長し、構成員も8名に増え、直売所は地域の八百屋的な役割も担っている。



写真2 農産物直売所

(2) 耕作放棄地対策

地域の課題であった野生鳥獣被害を防ぐために防護柵を設置したことにより、農作物の被害が激減し、安心して作付けを行う条件が整った結果、これまで耕作をあきらめていた農地への作付けが再開し、地域全体の農業生産力が高まっている。

また、平成19年度から地域の後継者組織「鹿泉会」が取り組んでいたそば栽培を耕作放棄地予防対策として組織活動に組み入れ、栽培の組織化を図ったところ、作付面積が当初の30aから年々増加し、平成29年度には1.3haに拡大している。



写真3 野生鳥獣被害防護柵の設置

(3) 新規導入作物の栽培

地域づくりの一環として水稲以外の基幹作物を導入するために「新規作物研究会」を設立し、平成 29 年度から 3 年間、鹿沼市の中山間地域支援策を受けて「マカ」の有機栽培に取り組む県外企業との契約栽培事業に取り組んでいる。

(4) 生産基盤の保全・管理

長年大雨等による増水のたびに修繕を行っていた 2 水利組合の取水堰の改修について、組合員以外も参加して補修作業を行う体制と、作業時には土木業に携わっていた地域の農業者から作業方法や手順を指導する技術の継承が行われ、災害発生時には、組織で機能診断を行い破損等があればできるだけ組織構成員で復旧を行う体制が構築されている。



写真 4 構成員による法面復旧

特に平成 27 年 9 月関東・東北豪雨による被害は甚大で、地域で手におえない個所が多数あったが、国県市の災害復旧事業と地域の活動により、被災した全農地を復旧に貢献している。

3. 生活・環境整備面における特徴

(1) 水路等の環境保全

子供たちに地域の環境に興味をもってもらおうとともに、地域の農業に関心を持ってもらうため、地域の農業用水路や田んぼで生きもの調査を実施している。田んぼ周辺の環境にどのような生きものが生息しているのかを、長年に渡り子どもたちと調査しており、多様な種類の生きものが多く確認されている。



写真 5 写真コメント

(2) コミュニティ活動の強化

当会は、地域住民の連携強化と当会活動の周知を目的に、「世界一ちいさな板荷畑そば祭り」を開催し、この祭りを通じて地域の特産物であるそばのおいしさ、臨時直売所の PR や会活動の情報発信を行っており、地域外からの来場者も年々増えている。

また、今後のコミュニティビジネスとして、そば店開設や直売所の機能拡大といった新たな活動も検討している。



写真6 世界一ちいさな板荷畑そば祭り